

受験番号	UM
------	----

令和7年度 山梨大学医学部看護学科 一般選抜前期日程問題用紙

小論文Ⅰ

【問】 次の文章を読み、「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を磨くことの意義について、あなたの考えを自分の体験をふまえて600字以内で述べなさい。

子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を授けてほしいとたのむでしょう。

この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠^{けんたい}と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤^{げどく}になるのです。

(中略)

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生みだす種子^{ひよく}だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ^{あわ}、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけだした知識は、しっかりと身につきます。

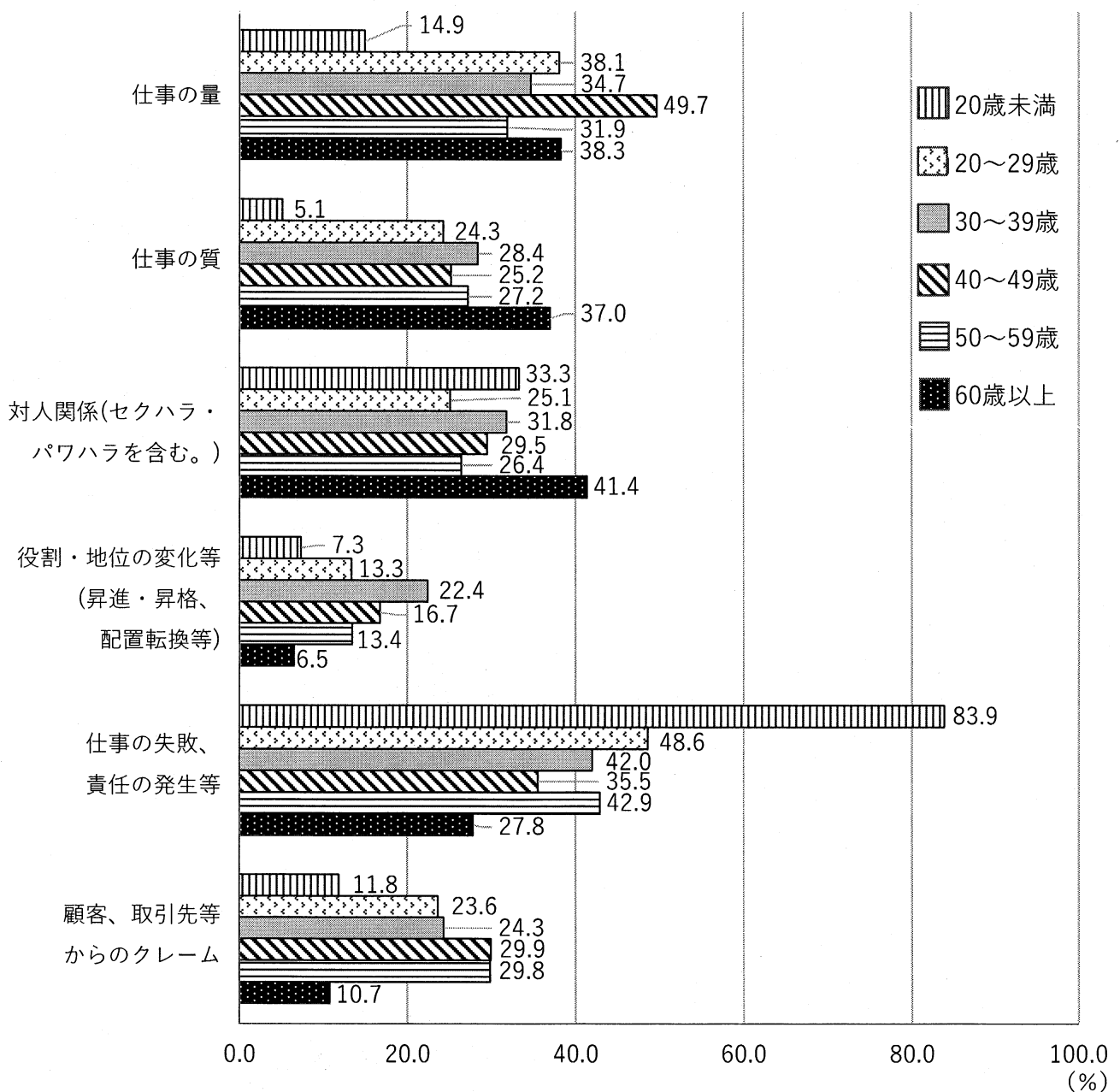
消化する能力がまだそなわっていない子どもに、事実をうのみにさせるよりも、むしろ子どもが知りたがるような道を切りひらいてやることのほうがどんなにたいせつであるかわかりません。

出典：レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』上遠恵子訳、新潮社、2021年。

令和7年度 山梨大学医学部看護学科 一般選抜前期日程問題用紙

小論文Ⅱ

【問】図は、厚生労働省が労働者約18,000人を対象に実施した「令和5年労働安全衛生調査（実態調査）」の個人調査の中で、「あなたは現在の自分の仕事や職業生活に関することで強い不安、悩み、ストレスとなっていると感じる事柄がありますか。主なもの3つ以内で選んでください。」という質問に対する結果の一部です。図から読み取れる特徴とそれに対するあなたの考えを400字以内で記述しなさい。



出典：厚生労働省、令和5年労働安全衛生調査（実態調査）結果の概要、第17表をもとに作図。

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/r05-46-50_kekka-gaiyo02.pdf（2025年1月20日情報取得）

